

会議結果報告書

平成28年7月25日

会議の名称	平成28年度第1回志木市総合戦略会議
開催日時	平成28年7月7日(木) 14時00分～16時20分
開催場所	市役所3階 301会議室
出席委員	為井 俊充委員、持田 直人委員、太田 裕彦委員 金谷 慶國委員、西川 和人委員、木下 良美委員 松浦 優子委員、松永 仁委員、松田 淳委員、 平間 貴久委員 <p style="text-align: right;">(計10人)</p>
欠席委員	<p style="text-align: right;">(計 0人)</p>
説明員職氏名	政策推進課 松田主査、平間主任 <p style="text-align: right;">(計 2人)</p>
議題	1 開会 2 議題 (1) 志木市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について (2) 地方創生交付金に係る事業の検証について (3) 志木市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る事業の提案 について 3 その他 4 閉会
結果	2議題(1)～(3)について会議委員に説明し、質疑応答等を行った。
事務局職員	星野政策推進課主任

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開会

2 議題

・平間政策推進課主任から（１）～（２）について説明後、内容について質疑応答を行った。

（委員）

全国学力・学習状況調査の市平均値が全国平均を上回る率（％）が平成26年度は100%であったのに対し、平成27年度が30%となっているが、どのように割合を算出しているのか。

（説明員）

小学校第6学年と中学校第3学年を対象に調査を行っている。科目については、小学校第6学年が国語A・B、算数A・B、理科であり、中学校第3学年が国語A・B、数学A・B、理科である。合計10科目のうち、平成26年度については、すべて全国平均を上回っていたので、100%となっているが、平成27年度については、中学校第3学年の国語B、数学A・Bの3科目が全国平均値を上回ったので、実績として30%となっている。

（委員）

地方創生とは何か。

（説明員）

人口減少社会に今後どのようにして対応していくかというものであると考える。

（委員）

デマンド交通は事前登録制になっているが、登録するために市役所に行かなくてはならないのは手間である。緩和することはできないか。

（説明員）

利用対象者を限定しているので、事前登録が必要になることをご理解いただきたい。

（委員）

母子手帳等を取得に来た際に、デマンド交通の登録案内をしてはどうか。

デマンド交通の申請をするためだけに市役所に来るのは負担である。

（説明員）

案内方法については、今後検討していきたい。

（委員）

同乗者の条件も緩和してほしい。

(説明員)

実証実験の結果を踏まえ、本格実施を開始したことにより、現在は同乗者の条件について多少緩和している。

(委員)

志木市で児童相談発達センターを設置するのは初めてか。

(説明員)

児童発達相談センターとしては初めてである。これまでは、健康増進センターや子育て支援センターに小児科の先生をお招きし、相談会を行っていた。

(委員)

市としては、必須になる事業だと思うので、是非継続して行ってほしい。

(説明員)

空き店舗活性化事業について、事業を開始したのが平成27年10月からであり、平成28年の3月に申請はあったが、店舗の契約を行い、商工会へ加盟したのが4月に入ってからだったので、実績としては成果が挙げられていないが、まったく反応がなかったわけでもないことをご理解いただきたい。

(委員)

実績としては、成果を挙げることができなかったので、この事業は廃止するということになるのか。

(説明員)

昨年度については、商店会の区域内にある空き店舗しか対象にしていなかったため、登録件数がなかった。今年度に入ってから市内全域の商店会に拡大をし、事業を継続していく予定である。

(委員)

感覚的な問題になるが、利用したいという人よりも、空き家になって困っている大家さんたちがどれだけこの制度を認識し、登録しているかが大きな問題であると考えます。今後のやり方を含め、何がいけなかったのかの考察を関係各位と徹底的に議論する必要があると思う。

(委員)

不動産会社よりも大家さんに直接呼びかけた方がいいと思う。

(委員)

空き店舗バンクに登録してある物件で補助金の申請をすれば、最初の開店時には補助金の交付が受けられる。利用者にとって、デメリットはないと思うので、もっと積極的に活用していくべきであると考えます。

(委員)

「空き店舗」という名前がよくないのではないか。

「店舗」という名前にすることによって、お店に限られるという認識を強く持たれてしまっているのではないか。

(委員)

「空き店舗」ではなく、「空きオフィス」という名称にしてはどうか。

オフィスとして見た場合、快速も停まるし、都心からの交通の便もよいのは大変魅力的である。

(委員)

起業したいと思っているが、子育て世帯のため、東京まで通勤できないという人たちは多いと思う。

起業するとなると、自宅ではできないので、オフィスが必要になってくるが、テナントビルを借りるほどでもないという時にもう少し形を変えれば、この事業はちょうどいいと思うので、かなりの方に重宝されると思う。

(委員)

そもそも、市として危機感をもっているのか。

(説明員)

危機感を持っている。空き家が増えている地区もあることに加え、起業家支援策という面もあるので、PR方法等を工夫できるのではと考えている。

- ・松田政策推進課主査から議題（3）について説明後、内容について質疑応答を行った。

(委員)

柳瀬川図書館を改修するにあたり、ただ改修するのではなく、とても魅力的な日本に1つしかない図書館を造るというような工夫が必要になると考える。

例えば、壁を登っていくと本があるというようなアスレチックの要素を持った図書館を造ってみてはどうか。また、公民館とアスレチックを併用している自治体もあり、みんなが驚くことをやっていく必要があると考える。

(委員)

いろは親水公園は利用者が多く、魅力発信とうまく絡めることをすればもっと多くの人に来てもらえると思う。

(説明員)

来年すぐということではなく、5年、10年のスパンで考えていただいてもよい。

(委員)

少しお金をかけてアスレチックを5か年計画で年3つずつ設置するなど、もっと足を運んでもらえるようにする方法があるのではないかと。

(委員)

例えば、商工会や市内の学校に予算を渡して、何かをやってもらうのもいいのではないかと。

そこに行政が入ることにより民と官の協働になるのでいいと思う。

(委員)

学生さんは未来の定住者でもあるので、「自分が住んでいるまち」としての当事者意識や愛着心が生まれるかもしれない。

(委員)

志木市は、良いことをたくさんやっているのに、外への発信がうまくできていないように感じる。

(委員)

定住人口や生産年齢人口の増加はインバウンドしかないのでは、如何に外にアピールできるかが課題ではないかと考える。

引っ越しを考えると、市のホームページを見る人は多いと思うので、ホームページの入り口を「志木市に住もうとする方へ」と「志木市にお住まいの方へ」と分けるのも方法ではないかと。

(委員)

実際に住んでみてわかる志木市の良いところはたくさんあるので、これを発信することはできないかと。

(説明員)

新たなコンテンツを作る以外に、まずは今持っているコンテンツを発信していくことも重要である。

3 その他

- ・次回日程等に関する連絡について

4 閉会